

## 今日のトピック

# インドネシア中銀、利下げを見送り

## ポイント1 政策金利を7.50%で据え置き 市場予想通り

- インドネシア銀行（中央銀行、以下中銀）は17日、政策金利を7.50%で据え置くことを発表しました。昨年11月、公定の燃料価格引き上げの影響を抑制するため緊急利上げが実施され、その後2月に物価の落ち着きを受け引き上げ分を戻す形になっていました。
- ブルームバーグの集計によると、エコノミスト17名中、15名が据え置きを、2名が利下げを予想しており、概ね市場予想通りとなりました。

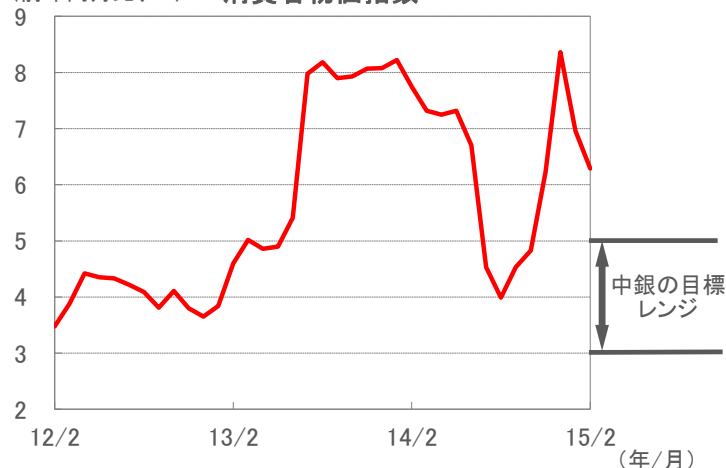
政策金利と為替レート



## ポイント2 物価上昇率は低下する見込み 通貨ルピア安が懸念材料

- 中銀は、食品価格の安定などから物価上昇率が2015年、2016年の目標（年4%±1%）に向けて低下すると見ています。
- 中銀は、2015年の経済成長率がインフラ整備に向けた高水準の投資や底堅い消費などに支えられ年+5.4%～+5.8%へ緩やかに加速すると見ています。過去の平均的な成長率を下回ることなどから、中銀は利下げにより景気のコテ入れを図りたいと思われます。一方、足元で通貨ルピアが下落基調にあり、利下げは一層の通貨安圧力になることから、早急な利下げの実施には慎重な姿勢です。

(前年同月比、%) 消費者物価指数



(注) 政策金利とインドネシアルピアは2012年3月1日～2015年3月17日。  
消費者物価指数は2012年2月～2015年2月。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 投資拡大が成長のけん引役、追加利下げはルピアの安定がカギ

- ジョコウィ大統領は、財政支出を補助金からインフラ投資に振り向ける経済政策を進めています。また、外国企業による投資手続きの簡素化なども進めており、海外からの投資の拡大が期待されます。投資の拡大が成長のけん引役となる見込みです。

- ルピア安は輸出にプラス要因となるものの、通貨安が急激に進む場合には、物価の上昇などを通じて経済の安定を損なう要因ともなり得ます。追加利下げの実施には、ルピアの安定がカギを握ると見られます。

### ここも チェック!

2015年03月12日 タイ中銀が予想外の利下げ  
2015年02月18日 インドネシアが予想外の利下げ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。